

札幌管区気象台見学会

日 時： 平成 23 年 8 月 11 日（木） 8：15～10：30
参加者： 日本気象予報士会北海道支部会員 22 名参加

1. 札幌管区気象台（観測開始（全国 3 番目）明治 9 年～
昭和 14 年に現在地に移転。現名称となっています。）



2. 地上気象観測施設（気圧、気温、湿度、風向、風速、降水量、積雪の深さ、降雪の深さ、日照時間、日射量、雲、視程、大気現象等の気象観測を行っています。）



3. 高層気象観測 (昭和15年より観測開始・・・(ラジオゾンデの放球見学))
高度30kmまでの気温、湿度、気圧、風向・風速を観測。
毎分360mで上昇していきます。



- ・中身は水素です。
- ・観測装置 (GPS アンテナ
気温、湿度等のセンサー
下部に送信アンテナが付いてます。)



放球 30 秒前



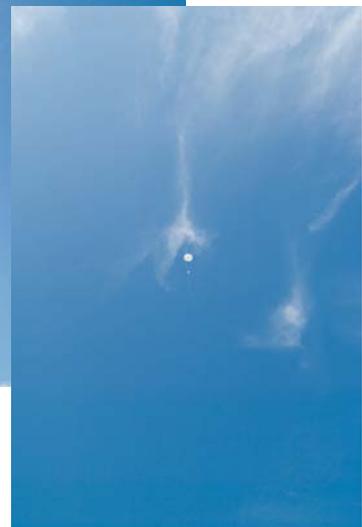
放球！！



ゆっくり上昇！



順調に高度を
上げていきま
した。



4. 予報会報見学 前日夕方から今朝までの予報担当者より、本日担当の予報担当者へ気象状況等の引継ぎが行われますが、その様子をはじめて見学させて頂きました。



予報課・観測課（予報・観測現業室）の様子

5. 予報課による防災気象情報についての解説



主任予報官よりの説明を受ける予報士会員の様子

防災気象情報の内容説明や情報提供時の対応方法について解説頂きました。また、注意報や警報の細分地域等についても説明して頂きました。

6. 地震火山課および火山監視・情報センター見学

地震火山課から北海道での1年間の地震発生件数15000件。震度1以上の地震は2日に1回のペースで発生しているとのこと。同課では、北大などの他機関のデータも利用して微小地震も含めた地震活動の監視を担当しているところであるとの解説を頂きました。また、火山監視・情報センターは、現在、日本には活火山と指定されているのが110ヶ所あり、各種計測機器をはじめ、モニター等で日々監視し、火山活動が活発になった時に、そのレベルに合わせて警報等を発表する役割をもつところであるとの解説を頂きました。



7. 10:30分過ぎに、第6回の例会を終了し、解散となりました。